-2019年1月を中心に-

回復基調を維持しているが、 米中貿易摩擦の影響も出始めている

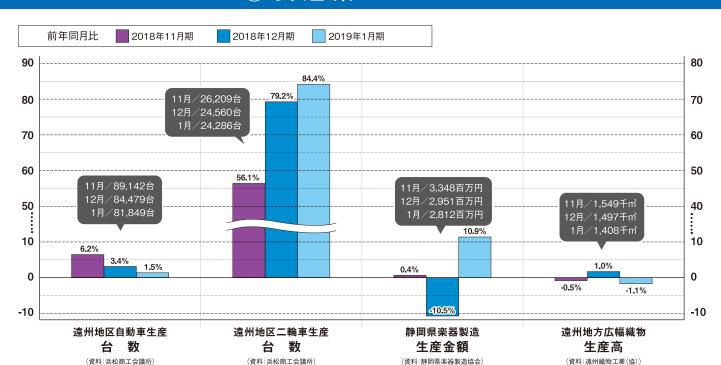
浜松地域の経済は、長らく回復基調が続いていたが、景気拡大の勢いは弱まってきている。 主要産業である輸送用機器の生産は自動車・二輪車とも堅調。 ただし、二輪車は統計上前年比大幅プラスとなっているが、

スズキ浜松工場(都田)稼働の特殊要因も大きく、一部では米中貿易摩擦の影響もでてきている。 米中貿易摩擦の影響は、今のところ幅広い産業に波及していないが、 今後当地域に直接・間接的に悪影響を及ぼす懸念がある。

2019. 2019年4月発行

発行:浜松商工会議所

(1) 製造業(主要経済指標)



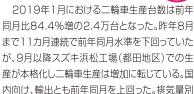
自動車



2019年1月における遠州地区の自動車 生産台数は前年同月比1.5%増の8.1万台 となった。前年水準を上回るのは9カ月連 続。小型四輪車は前年比プラス、軽自動車と 普通四輪車は前年比マイナスとなった。国 内向けは前年比1.7%減で9カ月振りに前 年水準を下回った。輸出は前年比19.0%増 となり、2カ月連続で前年水準を上回った。

関連中小企業の受注は引き続き好調な 模様。人手不足感は強いが省力化投資を行 う中小企業も目立ってきた。

二輪車



関連中小企業の多くは引き続き受注好調なも のの、「主要取引先の中国向け部品受注が減少」 「米中貿易戦争の影響がみられる」といった声も あった。

でみても、全てのクラスで前年同月を上回った。



2019年1月における生産金額 は前年同月比10.9%増の28億円 となり、2カ月振りに前年比プラス となった。分野別に1月の生産台数 をみると、ピアノと管楽器は前年比 プラス、電子・電気ピアノ、電子オル ガンは前年比マイナスとなった。

関連中小企業からは「原材料価 格が高騰」「原材料価格の変動に より利幅が縮小しといった声がき かれた。

繊維



2019年1月の生産量は前年 同月比1.1%減の1,408千㎡と なった。前年比マイナスとなるの は2カ月振り。綿織物、合繊織物 は前年同月比プラスとなったも のの、スフ織物とその他織物の 落ち込みが大きかった。

今春夏向け素材の生産は一 部を除き終了し、秋冬向け素材 の生産に移行している端境期で あり、稼働率が低下している。

運輸

前年比 DOWN

2019年1月におけるタクシー乗車人員は前年比6.2%減の43.6万人となった。前年水準を下回るのは5カ月連続でマイナス幅も拡大した。年明け以降、夜間の需要が落ち込んでいる模様。市内各社、乗務員不足及び高齢化が深刻化、供給力が低下している。

観光



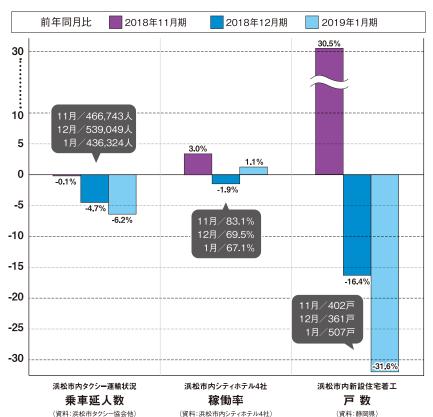
2019年1月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年 比1.1ポイント上昇の67.1%となり、2カ月振りに前年水準 を上回った。正月三が日を含む1月はビジネス需要・インバウ ンドとも前年並みだった。

住宅着工



2019年1月における浜松市の住宅新設着工は前年比31.6%減の507戸となった。前年1月は大規模分譲マンションの着工があり、分譲マンションが286戸あった一方、今年は0戸だったのが主な減少要因。

持家と貸家は前年同月比プラスだった。



③ その他〈主要経済指標〉

(資料:ハローワーク浜松)

有効求人



ハローワーク浜松管内における2019年1月の有効求人倍率は前年同月比の0.03ポイント上昇の1.79となった。前月比では0.07ポイント下落した。国(1.63)、静岡県(1.69)を上回っている。前月と比較して倍率は下落しているものの、高い水準で推移しており、極めて強い人手不足感が続いている。

倒産企業



2019年1月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は5件、負債総額は11.0億円となった。不動産業1社(5.0億円:破産)で負債総額の約半分を占めた。負債総額が10億円を超えたのは3カ月連続。

ガソリン価格

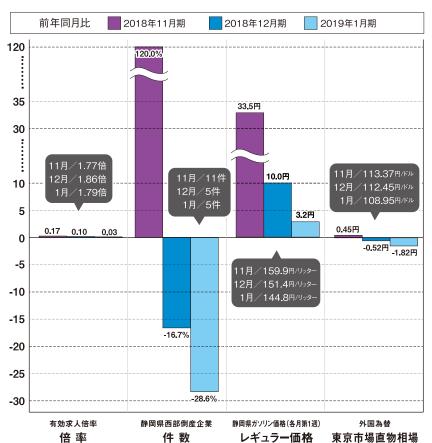


2019年1月第1週のレギュラーガンリン価格は1リットル当たり144.8 円となった。前月比6.6円下落、前年同月と比較すると上昇しているものの、 上昇幅は1~2カ月前と比較して縮小した。昨年9~10月にかけてガンリン 価格は大幅に上昇したが、10月下旬を山として下落に転じた。

外国為替



2019年1月の外国為替は1ドル108.95円となった。前年同月と比較すると1.82円の円高となっている。2019年に入り一時1ドル104円台になるなど円高が進行した。その後、米国金融政策が金融引き締め姿勢を後退させたため基調が変化、足元では1ドル110円台で推移している。



(資料:(株)帝国データバンク浜松支店)

(資料:資源エネルギー庁)

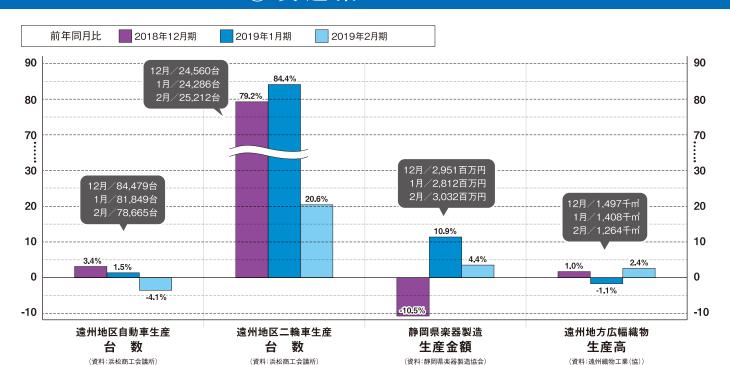
--2019年2月を中心に--

景気減速懸念が徐々に高まってきている。

浜松地域の経済は、長らく回復基調が続いていたが、景気拡大の勢いは弱まってきている。 自動車生産は10カ月振りに前年水準を下回った。国内向け生産が減少したのが 主な要因だが、米中関係悪化に伴い、中国向け部品生産にも悪影響がでてきている。 今のところ、米中貿易摩擦の影響は一部業種に限られているが、今後当地域に 直接・間接的に悪影響を及ぼす懸念がある。有効求人倍率は2カ月連続で下降したが、 引き続き高い水準で推移しており、人手不足感は解消されていない。

2019. 2019年5月発行 発行:浜松商工会議所

① 製造業(主要経済指標)



自動車



2019年2月における遠州地区の自動 車生産台数は前年同月比4.1%減の7.8 万台となった。前年水準を下回るのは10 カ月振り。小型四輪車は前年比プラス、軽 自動車と普通四輪車は前年比マイナスと なった。輸出は前年同月水準を維持した が、国内向けは前年同月比5.0%減少と

関連中小企業の受注は引き続き好調な 模様だが、米中関係悪化により、中国向け 生産に影響が出てきている企業もある。

二輪車



2019年2月における二輪車生産台数は前年 同月比20.6%増の2.5万台となった。昨年8月ま で11カ月連続で前年同月水準を下回っていた が、9月以降スズキ浜松工場(都田地区)での生 産が本格化し二輪車生産は増加に転じている。国 内向け、輸出とも前年同月を上回った。排気量別 でみても、全てのクラスで前年同月を上回ってお り、特に排気量50cc以下の生産増加が著しい。

関連中小企業の多くは引き続き受注好調なも のの、人手不足に伴う残業代増加や原材料高に より、利益が縮小している企業もある。

楽 器



2019年2月における生産金額 は前年同月比4.4%増の30億円 となり、2カ月連続で前年比プラス となった。分野別に2月の生産台数 をみると、ピアノ、電子オルガン、管 楽器は前年比プラス、電子・電気ピ アノは前年比マイナスとなった。

関連中小企業からは、受注は安 定しているとの声があるものの、原 材料価格が上昇し、利幅が縮小し ているとの声もきかれた。

繊 維



2019年2月の生産量は前年同月比 2.4%増の1,264千㎡となった。前年比 プラスとなるのは2カ月振り。綿織物、合 繊織物は前年比プラス、スフ織物とその 他織物は前年比マイナスとなった。

前年比プラスとはいえ、前月と比較す ると10.3%減少した。今春夏向け生産か ら秋冬向け生産に切り替わってきており、 綿織物が主の当地では例年稼働率が下 がる。10月に消費増税が実施されると、 今秋冬衣料の販売不振が予想される。

運輸

DOWN

2019年2月におけるタクシー乗車人員は前年比減の 39.9万人となった。前年水準を下回るのは6カ月連続。年明 け以降、夜間の需要が落ち込んでいる模様。市内各社、乗務 員不足および高齢化が深刻化、供給力が前年と比較すると1 割弱低下している。

観光

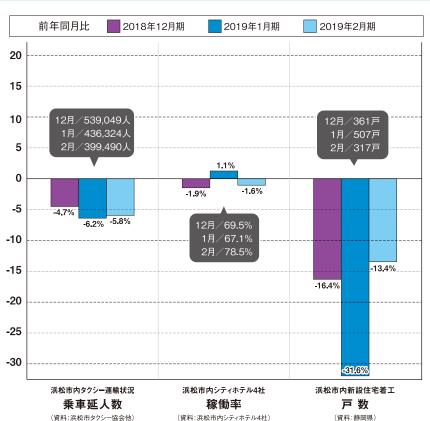


2019年2月の浜松市内シティホテル4施設の稼働率は 前年比1.6ポイント下降の78.5%となり、2カ月振りに前年 水準を上回った。中国の春節(旧正月)に伴うインバウンド 需要は堅調でほぼ前年並みだった。ビジネスも前年並みで 推移した。

住宅着工



2019年2月における浜松市の住宅新設着工は前年比 13.4%減の317戸となった。前年比マイナスは3カ月連続。 分譲住宅は前年比プラスとなったが、持家と貸家が前年比マ イナスとなった。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2019年2月の有効求人倍率は 前年同月比の0.01ポイント下降の1.75となった。前月比では 0.05ポイント下落した。国(1.63)、静岡県(1.69)を上回ってい る。2019年12月をピークに倍率は下落しているものの、高い水 準で推移しており、極めて強い人手不足感が続いている。

倒産企業



2019年2月における県西部の企業倒産件数(帝国データ バンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒 産)は3件、負債総額は5.5億円となった。負債総額が10億円 を下回ったのは4カ月振り。

ガソリン価格

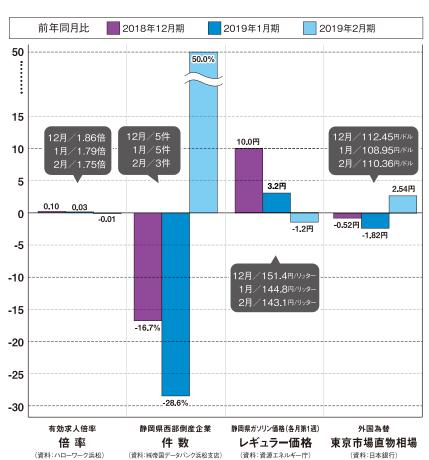


2019年2月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり143.1 円となった。前月比1.7円下落、前年同月と比較すると1.2円下落した。昨秋 まで上昇していたガソリン価格は10月下旬を山として下落に転じていた。 しかし、2月時点では下げ止まり、足元では緩やかに上昇している。

外国為替



2019年2月の外国為替は1ドル110.36円となった。前年 同月と比較すると2.54円の円安となっている。2019年に入 り一時1ドル104円台になるなど円高が進行した。その後、米 国金融政策が金融引き締め姿勢を後退させたため基調が変 化、2月以降は1ドル110円を挟んだ水準で推移している。



過去最高水準が続く景況感

静岡県西部地域の中小企業の業況判断指数*は、改善基調に一服感がみられる。 4~6月にかけての見通しもやや悲観的となっており、景気減速懸念が高まってきている。

※業況判断指数····· 景況判断の基準としてDI (Diffusion Index) による分析で、 各質問項目のプラス傾向割合からマイナス傾向割合を差し引いた数値のこと 2019. **1月~3月期**

2019年5月発行

発行 浜松商工会議所

	全体				うち小規模事業者				
	調査数	業況		調査数	業況				
	B-12-XX	前 期	今 期	見通し	шэдх	前 期	今 期	見通し	
全 体	622				255				
二輪車部品製造	49			T	17		T		
自動車部品製造	80				24			***	
機械部品製造	51				31				
楽器部品製造	18		7		12				
繊維製造	24		7	7	19		T		
卸売業	74				25	T	T		
小売業	58		7	7	26	T	T	T	
建設業	69		× ×		11	丁			
不動産業	43				29	z k			
飲食・宿泊・ レジャー等	25	7				「2019年1月~	~3月期中小企業景	景気動向調査」より	

調査で聞き取ったコメント ※意見の多かったものを抜粋して掲載しています。

- 受注増加を考慮し、設備投資を検討したい。 (自動車部品製造業)
- 仕入価格の上昇が収益を圧迫している。 (卸売業、小売業)
- ◆ 人件費が高止まり傾向にあり、 利益率は低下している。(全業種)
- 最近の時代の流れから、QRコード決済の 必要性を感じている。(飲食業)

天気予報図の見方 DI:景気動向指数 土砂降り 晴れ時々曇り 晴れ 88 墨り 薄 曇 快晴 DI:-30.0 DI:-10.0~ DI:-0.1~ DI:0.0~ DI:10.0~ DI:20.0~ DI:30.0 以下 -29.9 -9.9 9.9 19.9 29.9 以上

--2019年3月を中心に--

製造業の景況悪化の影響が出始めている。

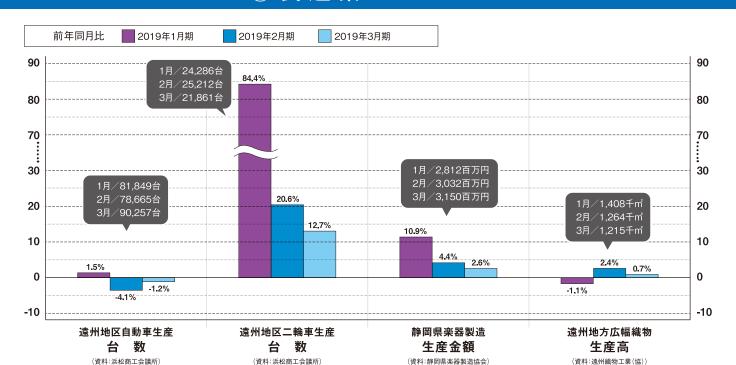
浜松地域の経済は、今まで全体を牽引してきた製造業(自動車・二輪車等)の景況悪化の影響が出始めている。 自動車生産は、依然高水準で推移しているが、2カ月連続で前年水準を下回った。

一部で、米中関係の悪化により、中国向けの生産にも影響が出始めている中小企業もある。

また、地元上場企業の3月期決算を見てみると、海外は新興国通貨安の影響等により採算が悪化したところもあるものの、 国内の販売貢献等によりカバーし、売上を確保したところもあった。

引き続き人手不足感も高まっており、生産制約要因となっている。

① 製造業(主要経済指標)



自動車

前年比 DOWN

2019年3月における遠州地区の 自動車生産台数は前年同月比1.2% 減の9.0万台となった。前年水準を下 回るのは2カ月連続。小型四輪車と軽 自動車は前年比プラス、普通四輪車 は前年比マイナスとなった。国内向け は前年同月水準を維持したが、輸出 は前年同月比20.6%減少となった。

2018年度の生産台数は、前年度 比3.9万台増の101万台となり、4年 ぶりの100万台突破となった。

二輪車

2019年3月における二輪車生産台数は前年同月 比12.7%増の2.1万台となった。昨年8月まで11カ 月連続で前年同月水準を下回っていたが、9月以降ス ズキ浜松工場(都田地区)での生産が本格化し二輪車 生産は増加に転じている。国内向けは、前年同月を上 回ったが、輸出は前年同月を下回った。排気量別でみ ると、特に排気量50cc以下の生産増加が著しい。

2018年度の生産台数は、前年度比3.6万台増の24.2万台となった。一部で、米中貿易摩擦の影響で中国向けの受注が減少しているといった声も聞かれる。

楽 器



2019年3月における生産金額は前年同月比2.6%増の31億円となり、3カ月連続で前年比プラスとなった。分野別に3月の生産台数をみると、電子オルガンは前年比プラス、ピアノ、電子・電気ピアノ、管楽器は前年比マイナスとなった。特にグランドピアノが大幅に前年を下回った

関連中小企業からは、受注堅調の声があるものの、原材料の価格が上昇し、 利幅が縮小しているとの声も聞かれた。

繊維



2019年3月の生産量は前年 同月比0.7%増の1,215千㎡と なった。前年比プラスとなるのは 2カ月連続。綿織物、合繊織物は 前年比プラス、スフ織物とその他 織物は前年比マイナスとなった。

例年、秋冬向けの生産が活発 化する時期であるが、若干盛り上 がりに欠ける様子。2018年度の 生産量は、前年度比198千㎡減 の14,726千㎡となった。

運輸

前年比 DOWN

2019年3月におけるタクシー乗車人員は前年同月比5.7%減の48.5万人となった。前年水準を下回るのは7カ月連続。2018年度の乗車人員は563万人となり、前年度を18.2万人下回った。市内各社、乗務員不足及び高齢化が深刻化している。

観光

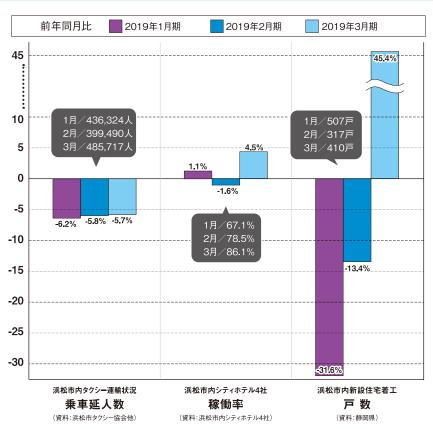


2019年3月の浜松市内シティホテル4施設の稼働率は前年比4.5ポイント上昇の86.1%となった。稼働率が85%を超えるのは、7カ月ぶり。ビジネス、春の行楽シーズン向けが堅調であり、中でもインバウンド向けが好調に推移、高稼働の状況となっている。また、ラグビーワールドカップに向けた予約も順調な様子。

住宅着工



2019年3月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比45.4%増の410戸となった。前年比プラスは4カ月ぶり。増加の要因は、貸家の増加が大きい。2018年度の着工件数では、前年度比261件減の5,332件となった。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2019年3月の有効求人倍率は前年同月比の0.01ポイント下降の1.66となった。前月比では0.09ポイント下落した。全国(1.63)との比較では0.03ポイント上回り、9カ月連続して全国値を上回ったが、静岡県(1.67)は下回った。2018年12月をピークに倍率は下落しているものの、高い水準で推移しており、極めて強い人手不足感が続いている。

倒産企業



2019年3月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は3件、負債総額は3.7億円となった。2カ月連続して負債総額が10億円を下回った。

ガソリン価格

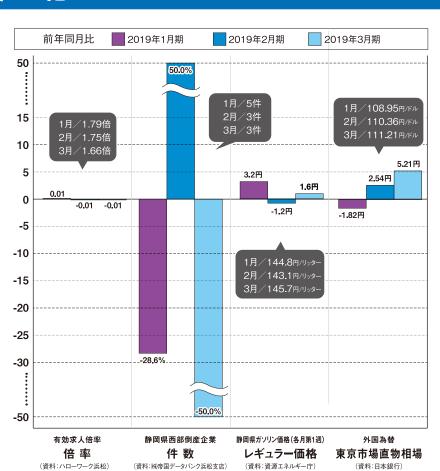


2019年3月第1週のレギュラーガンリン価格は1リットル当たり145.7 円となった。前月比2.6円上昇、前年同月と比較すると1.6円上昇した。昨秋まで上昇していたガンリン価格は10月下旬を山として下落に転じていた。しかし、2月には下げ止まり、3月では緩やかに上昇している。

外国為替

DAR THE STATE OF T

2019年3月の外国為替は1ドル111.21円となった。前年同月と比較すると5.21円の円安となっている。2019年に入り一時1ドル104円台になるなど円高が進行した。その後、米国金融政策が金融引き締め姿勢を後退させたため基調が変化、2月~3月は1ドル110円を挟んだ水準で推移している。



―2019年4月を中心に―

製造業の景況悪化の影響で停滞感が出始めている。

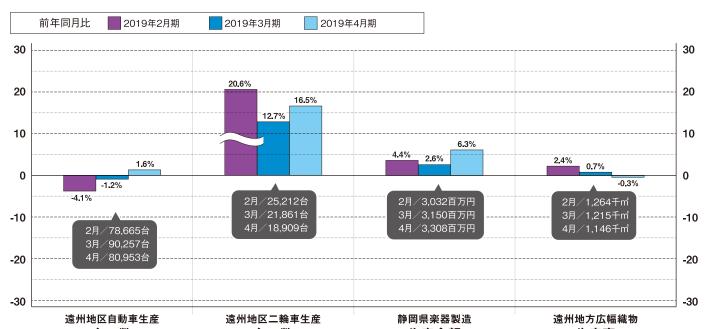
浜松地域の経済は、製造業(自動車・二輪車等)の景況悪化の影響で、停滞感が出始めている。 一部で、米中関係の悪化により、中国向けの生産にも影響が出始めている中小企業もある。 また、内閣府が発表した4月の景気動向指数は、2カ月ぶりに上昇したが、 指数の推移から機械的に決まる基調判断は、2カ月連続で悪化となった。

米中の貿易摩擦の影響で、年初に大きく落ち込んだ生産の戻りが鈍いことが背景にある。

一方、観光面では、インバウンド向けが好調に推移し、浜松市内のシティホテルの稼働率は高稼働となっている。

2019. 2019年7月発行 発行:浜松商工会議所

(1) 製 诰 業 〈主要経済指標〉



台 数 (資料:浜松商工会議所)

台 数 (資料:浜松商工会議所) 生産金額

生産高

(資料:静岡県楽器製造協会)

(資料:遠州織物工業(協))

自動車



2019年4月における遠州地区の自 動車生産台数は前年同月比1.6%増 の8.0万台となった。前年水準を上回 るのは3カ月ぶり。小型四輪車と軽自 動車は前年比プラス、普通四輪車は前 年比マイナスとなった。国内向けは前 年同月比6.5%増加だったが、輸出は 前年同月比15.7%減少となった。

引き続き受注増加である声も多い が、米中関係悪化により中国向け生産 にも影響が出始めている。

二輪車



2019年4月における二輪車生産台数は前年同 月比16.5%増の1.8万台となった。昨年8月まで 11カ月連続で前年同月水準を下回っていたが、9 月以降スズキ浜松工場(都田地区)での生産が本格 化し二輪車生産は増加に転じている。国内向けは、 前年同月を大幅に上回ったが、輸出は前年同月並 みにとどまった。排気量別でみると、特に排気量 50cc以下の生産増加が著しい。

米中貿易摩擦の影響で中国向けの受注が減少し ているといった声も聞かれる一方、新規受注や海外 向けの受注が良好等、受注増加である声も多い。

楽器



2019年4月における生産金額 は前年同月比6.3%増の33億円 となり、4カ月連続で前年比プラス となった。分野別に4月の生産台数 をみると、ピアノ、管楽器は前年比 プラス、電子・電気ピアノ、電子オ ルガンは前年比マイナスとなった。

親会社からの受注は安定してい るなど受注堅調であるが、代表者 や従業員の高齢化が課題となって いる。

繊維



2019年4月の生産量は 前年同月比0.3%減の 1.146千㎡となった。前年比 マイナスとなるのは3カ月ぶ り。合繊織物は前年比プラ ス、綿織物、スフ織物、その他 織物は前年比マイナスと

例年、秋冬向けの生産が 活発化する時期であるが、今 年は生産が不調である様子。

運輸

DOWN

2019年4月におけるタクシー乗車人員は前年同月比 0.4%減の45.7万人となった。前年水準を下回るのは8カ月 連続。4月は大きなイベントもなく、低迷した。市内各社、乗 務員不足および高齢化が深刻化している。

観光

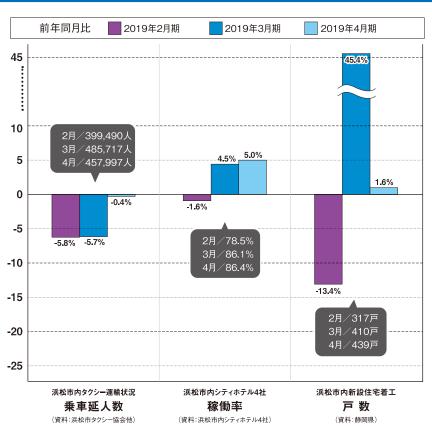


2019年4月の浜松市内シティホテル4施設の稼働率は 前年比5.0ポイント上昇の86.4%となった。稼働率が85% を超えるのは、2カ月連続。4月もインバウンド向けが好調 に推移した。GWが今年は10連休であり、4月後半はレ ジャー客を中心に高稼働の状況が続いた。

住宅着工



2019年4月における浜松市の住宅新設着工は前年同月 比1.6%増の439戸となった。前年比プラスは2カ月連続。 持家は前年同月比マイナスだったが、貸家の増加が寄与し前 年同月比プラスとなった。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2019年4月の有効求人倍 率は前年同月比の0.08ポイント下降の1.45となった。前月比 では0.21ポイント下落した。全国(1.63)との比較では10カ月 ぶりに0.18ポイント下回り、静岡県(1.61)も下回った。2018 年12月をピークに倍率は下落しているものの、人手不足感は 続いている。例年、4月以降の数カ月間は定年退職者の増加に よって有効求人倍率は悪化する傾向がみられる。

倒産企業



2019年4月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べ による負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は6件、負債総額は 5.5億円となった。3カ月連続して負債総額が10億円を下回った。

ガソリン価格

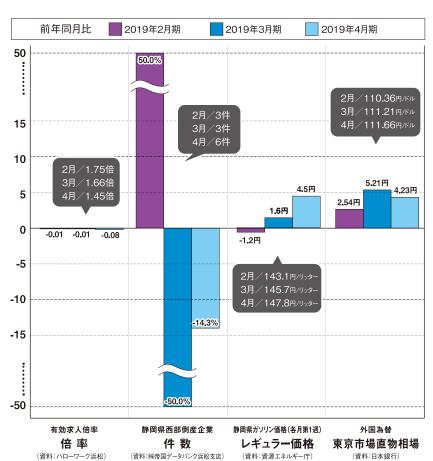


2019年4月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり 147.8円となった。前月比2.1円上昇、前年同月と比較すると4.5円 上昇した。昨年10月下旬を山として下落に転じていたガソリン価格 は、2月には下げ止まり、3月~4月は上昇傾向に転じている。

外国為替



2019年4月の外国為替は1ドル111.66円となった。前年同月 と比較すると4.23円の円安となっている。2019年に入り円高が 進行した後、米国金融政策が金融引き締め姿勢を後退させたため 基調が変化、2月~4月は1ドル110円台の水準で推移している。



--2019年5月を中心に--

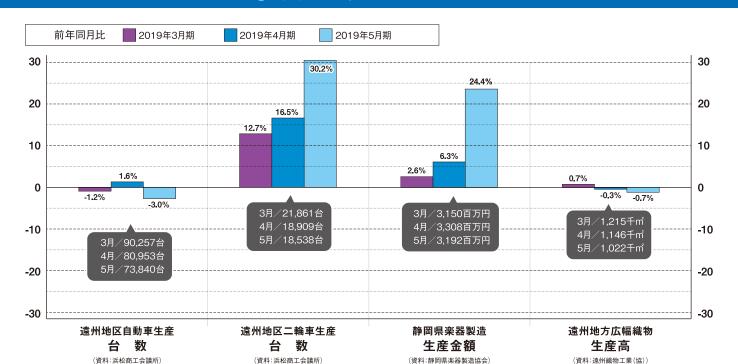
製造業の更なる景況悪化で停滞感が強まっている。

浜松地域の経済は、製造業(自動車・二輪車等)の更なる景況悪化で、停滞感が強まっている。 米中貿易摩擦や世界経済の減速などで、製造業が落ち込んでいる。

非製造業は底堅いが補いきれていない。経済の先行き不透明感が強まりつつある。

また、10月に予定している消費税率の引き上げを前に、税率が低いうちに買い物をする「駆け込み需要」がまだ見られない。 一方、飲食・宿泊・レジャーでは、今年のGWは10連休かつ令和の祝賀ムードもあり、好調に推移した。 2019. 2019年8月発行 発行:浜松商工会議所

1) 製造業(主要経済指標)



自動車

2019年5月における遠州地区の自動車 生産台数は前年同月比3.0%減の7.3万台と なった。前年水準を下回るのは2カ月ぶり。小 型四輪車と軽自動車は前年比プラス、普通四 輪車は前年比マイナスとなった。国内向けは 前年同月比1.9%増加だったが、輸出は前年

引き続き受注堅調や設備投資に関する声もあるが、米中関係悪化により中国向け生産にも影響が出ている。また、売上の停滞・減少を経営の問題点に挙げる企業も増えている。

同月比19.5%減少となった。

二輪車

DOWN

2019年5月における二輪車生産台数は前年同月比30.2%増の1.8万台となった。昨年8月まで11カ月連続で前年同月水準を下回っていたが、9月以降スズキ浜松工場(都田地区)での生産が本格化し二輪車生産は増加に転じている。国内向けは、前年同月を大幅に上回ったが、輸出は前年同月並みにとどまった。排気量別でみると、引き続き排気量50cc以下の生産増加が著しい。

米中貿易摩擦の影響で中国向け部品受注が減少 しているといった声が多く聞かれる一方、新規受注や 海外向けの受注が良好等の声は少なくなっている。

楽 器

2019年5月における生産金額は前年同月比24.4%増の31億円となり、5カ月連続で前年比プラスとなった。分野別に5月の生産台数をみると、ピアノは前年比プラス、電子・電気ピアノ、電子オルガン、管楽器は前年比マイナスとなった。

毎期受注は安定しており、業 況は堅調に推移しているが、原 材料価格の上昇で利幅が縮小し ている。

繊維



2019年5月の生産量は前年同月比0.7%減の1,022千㎡となった。前年比マイナスとなるのは2カ月連続。その他織物は前年比プラス、綿織物、合繊織物、スフ織物は前年比マイナスとなった。

今秋冬衣料向けの生産が終盤の時期ではあるが、予想以上に盛り上がりを欠く状況で、受注委託生産の工場の稼働率は低下している。

運輸

前年比 DOWN

2019年5月におけるタクシー乗車人員は前年同月比3.7%減の46.6万人となった。前年水準を下回るのは9カ月連続。5月の浜松まつりの輸送実績は、3日間晴天であり、前年を若干上回った。相変らず、市内各社、乗務員不足および高齢化が深刻な問題となっている。

観光



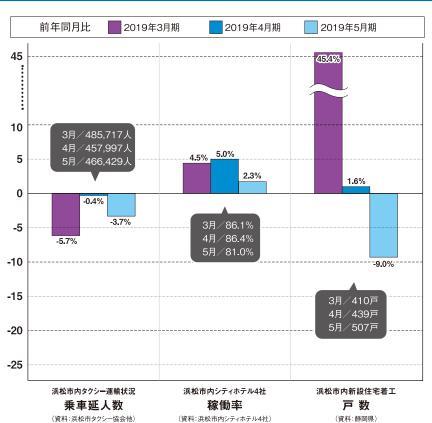
2019年5月の浜松市内シティホテル4施設の稼働率は前年比2.3ポイント上昇の81.0%となった。5月前半は、GWの10連休の恩恵を受け、観光客を中心に好調に推移した。また、インバウンドは引き続き好調だったが、5月後半は落ち着いた稼働状況となった。

住宅着工



2019年5月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比9.0%減の507戸となった。前年比マイナスは3カ月ぶり。持家は前年同月比プラスだったが、貸家の大幅な減少により前年同月比マイナスとなった。

また、10月に予定している消費税率の引き上げを前に、税率が低いうちに買い物をする「駆け込み需要」がまだ見られない。特に高額な住宅で動きが乏しい。



③ その他〈主要経済指標〉

(資料:ハローワーク浜松)

有効求人



ハローワーク浜松管内における2019年5月の有効求人倍率は前年同月比の0.19ポイント下降の1.37となった。前月比では0.08ポイント下落した。全国(1.62)との比較では0.25ポイント下回り、静岡県(1.56)も下回った。2018年12月をピークに倍率は5カ月連続して下落しているものの、人手不足感は続いている。例年、4月以降の数カ月間は定年退職者の増加によって有効求人倍率は悪化する傾向がみられる。

倒産企業



2019年5月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は7件、負債総額は2.8 億円となった。4カ月連続して負債総額が10億円を下回っている。

ガソリン価格

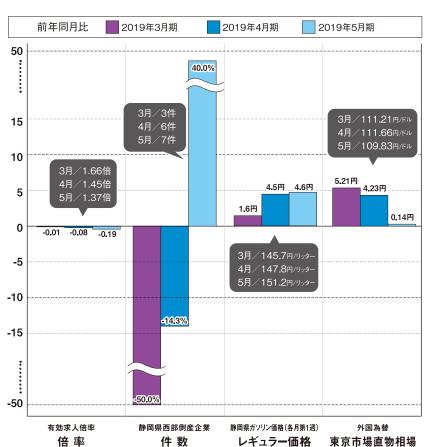


2019年5月第1週のレギュラーガンリン価格は1リットル当たり151.2円となった。前月比3.4円上昇、前年同月と比較すると4.6円上昇した。昨年10月下旬を山として下落に転じていたガンリン価格は、2月には下げ止まり、3月~5月は上昇傾向に転じている。

外国為替



2019年5月の外国為替は1ドル109.83円となった。前年同月と比較すると0.14円の円安となっている。2019年に入り円高が進行した後、米国金融政策が金融引き締め姿勢を後退させたため基調が変化、2月~4月は1ドル110円台の水準で推移したが、5月は若干の円高となった。



(資料:(株)帝国データバンク浜松支店)

(資料:資源エネルギー庁)

四半期のまとめと見通し

景気減速懸念が強まる

静岡県西部地域の中小企業の業況判断指数*は、2年3カ月振りにマイナス水準(「悪い」が「良い」を上回る)となった。 7~9月にかけては、さらに悪化する見通しとなっている。

※業況判断指数…… 景況判断の基準としてDI (Diffusion Index) による分析で、 各質問項目のプラス傾向割合からマイナス傾向割合を差し引いた数値のこと 2019. **4月~6月期**

2019年8月発行

発行 浜松商工会議所

	全体				うち小規模事業者			
	調査数	業況		調査数	業況			
	шадх	前 期	今 期	見通し	四月五久	前 期	今 期	見通し
全体	639				266		丁	T
二輪車部品製造	54			T	24	T	T	T
自動車部品製造	70	***			19		z Čt	
機械部品製造	57		T	7	29	*	T	T
楽器部品製造	21	T	7	7	10		T	T
繊維製造	25	丁	宁	丁	18	丁		T
卸売業	75			7	30	7	丁	T
小売業	59	†	†	T	26	T	***	19/9
建設業	70	z k			13			
不動産業	45				29			
飲食・宿泊・ レジャー等	19		**		「2019年4月~6月期中小企業景気動向調査」より			

調査で聞き取ったコメント ※意見の多かったものを抜粋して掲載しています。

- 米中貿易摩擦の影響で、中国向け部品受注が 減少している。(二輪車部品製造業)
- 最新設備を導入し、生産効率向上の 取り組みをしている。(自動車部品製造業)
- 天候不順で新茶の出来が悪く、 量も少なく、単価も高くない。(製茶業)
- 消費増税前で住宅新築を検討する消費者が 増え、売上増加につながっている。(建設業)

天気予報図の見方 DI:景気動向指数 土砂降り 薄曇 晴れ時々曇り 晴れ 88 墨り 快晴 DI:-30.0 DI:-10.0~ DI:-0.1~ DI:0.0~ DI:10.0~ DI:20.0~ DI:30.0 以下 -29.9 -9.9 9.9 19.9 29.9 以上

好調

-2019年7月を中心に-

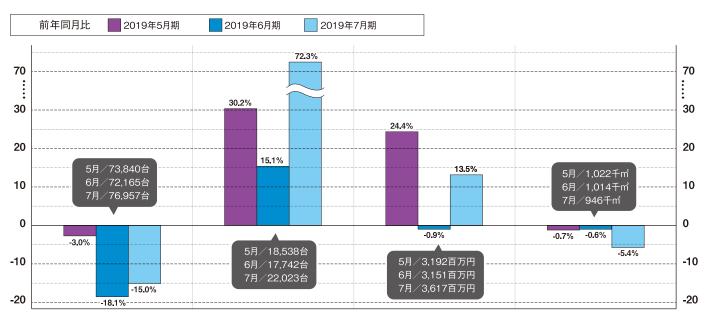
製造業の生産減で景況感にブレーキがかかっている。

浜松地域の経済は、製造業(特に自動車)の生産減少を受けて、景況感にブレーキがかかっている。 米中貿易摩擦が激しさを増し、世界経済の減速も懸念されている。

そこへ、地元自動車メーカーの検査対応による影響も重なり、自動車生産に陰りがみられる。 今まで、浜松経済を牽引してきた製造業他のさらなる悪化が、景況感にも悪影響を及ぼしている。 10月の消費増税を控え、景気後退の懸念が鮮明になりつつある。

2019. 2019年10月発行 発行:浜松商工会議所

1) 製造業(主要経済指標)



遠州地区自動車生産 台 数

(資料:浜松商工会議所)

读州地区二輪車生産 台 数

(資料:浜松商工会議所)

静岡県楽器製造 生産金額

(資料:静岡県楽器製造協会)

遠州地方広幅織物 生産高

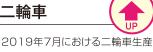
(資料:遠州織物工業(協))

自動車



2019年7月における遠州地区の 自動車生産台数は前年同月比15.0% 減の7.6万台となった。前年水準を下 回るのは3カ月連続。軽自動車、小型四 輪車、普通四輪車はすべて前年比マイ ナスとなった。国内向けは前年同月比 14.4%減少であり、輸出も前年同月 比17.6%減少となった。

地元自動車メーカーの検査対応で、 生産速度を抑えて検査を強化している 影響が出ている。



台数は前年同月比72.3%増の2.2 万台となった。昨年9月以降、スズキ の浜松工場(都田)が本格稼働したこ とにより、生産台数が増加している。

また、国内向けは、前年同月を大幅 に上回り(318.2%増)、輸出も前年 同月比58.1%の増加となった。排気 量別でみると、引き続き排気量50cc 以下の生産増加が著しい。

楽 器



2019年7月における生産金額 は前年同月比13.5%増の36億 円となり、2カ月ぶりに前年比プラ スとなった。分野別に7月の生産台 数をみると、ピアノ、電子オルガ ン、管楽器は前年比プラス、電子・ 電気ピアノは前年比マイナスと

業況堅調の声がある一方で、従 業員、パートの高齢化が課題と なっている。

繊 維



2019年7月の生産量は前年同 月比5.4%減の946千㎡となっ た。前年比マイナスとなるのは4カ 月連続。その他織物は前年比プラ ス、綿織物、合繊織物、スフ織物は 前年比マイナスとなった。

秋冬向けの生産が終了し、来春 夏衣料向けの生産が始まるまでの 間、端境期に入ったが、前年よりも 更に稼働率が低下している模様。

運輸

前年比 DOWN

2019年7月におけるタクシー乗車人員は前年同月比3.2%減の46.4万人となった。前年水準を下回るのは11カ月連続。タクシー乗車人員が減少している背景には、乗務員不足及び高齢化など構造的な問題がある。

観光

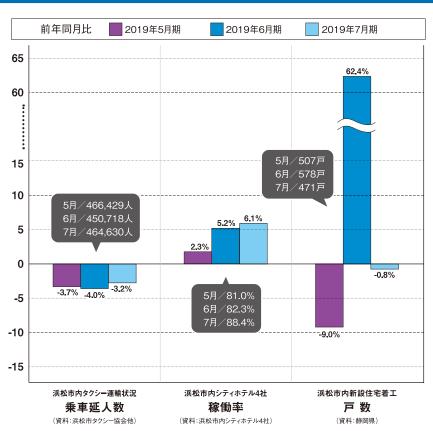


2019年7月の浜松市内シティホテル4施設の稼働率は前年比6.1ポイント上昇の88.4%となった。稼働率が80%を超えるのは5カ月連続。インバウンドを中心として好調に推移、高稼働の状況となっている。また、ラグビーワールドカップに向けた予約が好転し始めている。

住宅着工



2019年7月における浜松市の新設住宅着工は、前年同月比0.8%減の471戸となった。前年比マイナスは2カ月ぶり。持家は前年同月比27戸増加だったが、貸家が前年同月比31戸減少となり、全体では前年同月比若干のマイナスとなった。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2019年7月の有効求人倍率は前年同月比0.22ポイント下降の1.44となった。前月比では0.05ポイント上昇した。全国(1.59)との比較では0.15ポイント下回り、静岡県(1.57)も下回った。月間有効求職者が前年同月比6.3%増加する一方、月間有効求人は前年同月比8.2%減少しており、若干人手不足感が緩和している。

倒産企業



2019年7月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は7件、負債総額は13.1億円となった。負債総額が10億円を上回ったのは、6カ月ぶり。

ガソリン価格

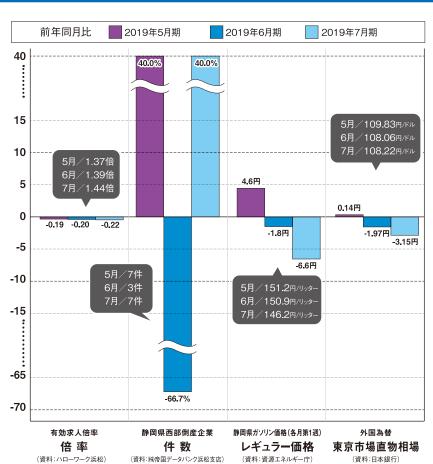


2019年7月第1週のレギュラーガンリン価格は1リットル当たり146.2 円となった。前月比4.7円下落、前年同月と比較すると6.6円下落した。昨年10月下旬を山として下落に転じていたガンリン価格は、2月には下げ止まり、3~5月は上昇傾向に転じた後、6~7月は再び下落した。

外国為替



2019年7月の外国為替は1ドル108.22円となった。前年同月と比較すると3.15円の円高となっている。2019年に入り円高が進行した後、米国金融政策が金融引き締め姿勢を後退させたため基調が変化、2~4月は1ドル110円台の水準で推移したが、5~7月は米中貿易摩擦激化に対する警戒感から円高となった。



-2019年8月を中心に-

米中貿易摩擦激化で景況感が冷え込んでいる。

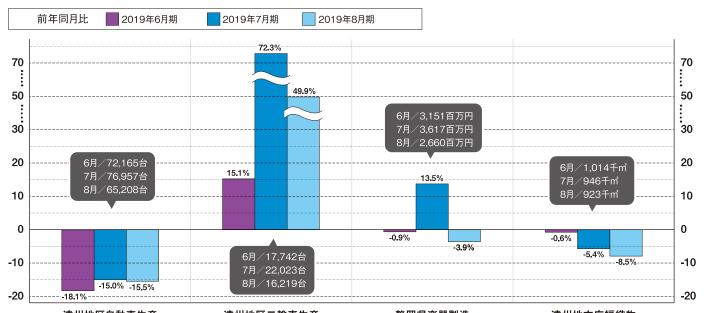
浜松地域の経済は、米中貿易摩擦が激しさを増す中、 製造業(特に自動車)の生産減少を受けて、景況感が冷え込んでいる。

また、地元自動車メーカーの検査対応で、

生産速度を抑えて検査を強化している影響が出て、受注に陰りがみられる。

一方、8月は観光シーズンであり、宿泊はインバウンドを中心として好調をキープした。 10月の消費増税で、駆け込み需要は一部で発生しているが、増税後の景況は、悪化が予想される。 2019. **2019年11月発行** 発行:浜松商工会議所

1 製造業(主要経済指標)



遠州地区自動車生産 台数

(資料:浜松商工会議所)

遠州地区二輪車生産 台数

(資料:浜松商工会議所)

静岡県楽器製造 生産金額

(資料:静岡県楽器製造協会)

遠州地方広幅織物 生産高

(資料:遠州織物工業(協))

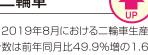
自動車



2019年8月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比15.5%減の6.5万台となった。前年水準を下回るのは4カ月連続。軽自動車、小型四輪車、普通四輪車のいずれも前年比マイナスとなった。国内向けは前年同月比12.9%減少であり、輸出も前年同月比25.2%減少となった。

米中貿易摩擦の激化や地元自動車メーカーの検査対応で、生産速度を抑えて検査を強化している影響が出て、受注に陰りがみられる。

二輪車



2019年8月における一輪車生産 台数は前年同月比49.9%増の1.6 万台となった。昨年9月以降、スズキ の浜松工場(都田)が本格稼働したこ とにより、生産台数が増加している。

また、国内向けは、前年同月比50.6%の増加、輸出も前年同月比49.7%の増加となった。排気量別でみると、引き続き排気量50cc以下の生産が増加している。

楽 器



2019年8月における生産金額は前年同月比3.9%減の26億円となり、2カ月ぶりに前年比マイナスとなった。分野別に8月の生産台数をみると、ピアノ、電子電気ピアノ、電子オルガン、管楽器のいずれも前年比マイナスとなった。

売上・利益とも堅調との声がある一方で、人手不足や設備の老朽 化が課題となっている。

繊維



2019年8月の生産量は前年同月比8.5%減の923千㎡となった。前年比マイナスとなるのは5カ月連続。綿織物、合繊織物、スフ織物、その他織物のいずれも前年比マイナスとなった。

秋冬向けの生産が終了し、年間を通じて最も稼働率が下がる時期ではあるが、近年にはない受注の冷え込みを感じる。

運輸

DOWN

2019年8月におけるタクシー乗車人員は前年同月比 4.9%減の47.6万人となった。前年水準を下回るのは12カ 月連続。タクシー乗車人員が減少している背景には、乗務員 不足及び高齢化など構造的な問題がある。対策として、定年 を65歳に引き上げた企業もある。

観光

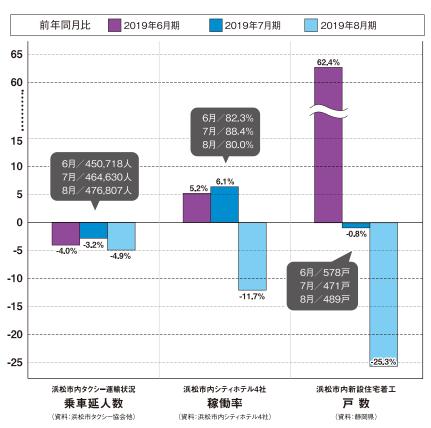


2019年8月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前 年比11.7ポイント下降の80.0%となった。ただし、稼働率 が80%以上となるのは6カ月連続。8月は観光シーズンで あり、宿泊はインバウンドを中心として好調をキープした。 また、ラグビーワールドカップに向けた予約も好調の模様。

住宅着工



2019年8月における浜松市の新設住宅着工は、前年同月 比25.3%減の489戸となった。前年比マイナスは2カ月連 続。持家は前年同月比31戸減少、貸家も前年同月比75戸減 少、分譲住宅も前年同月比39戸減少となり、全体で前年同 月比大幅なマイナスとなった。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2019年8月の有効求人倍率は前年同月 比0.24ポイント下降の1.43となった。前月比では0.01ポイント下降した。 全国(1.59)との比較では0.16ポイント下回り、静岡県(1.57)も下回っ た。月間有効求職者が前年同月比6.2%増加する一方、月間有効求人は前 年同月比9.3%減少しており、若干人手不足感が緩和している。

倒産企業



2019年8月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク 調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は3件、負 債総額は3.0億円となった。2019年に入り、倒産件数は1桁台で推 移している。負債総額が10億円を下回ったのは、2カ月ぶり。

ガソリン価格

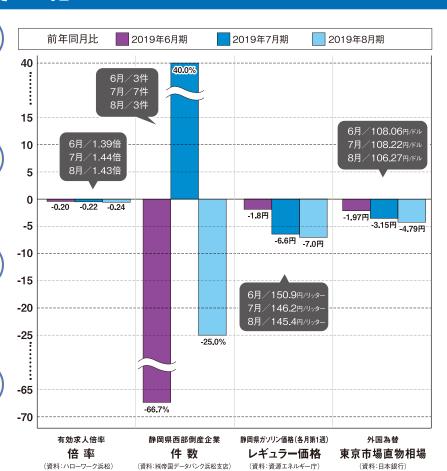


DOWN

2019年8月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり 145.4円となった。前月比0.8円下落、前年同月と比較すると7.0円下 落した。ガソリン価格は、2019年2月をボトムとして、3~5月は上昇 傾向に転じた後、6~8月は再び下落した。中東情勢が緊迫の度を強め る恐れもあり、市場では先行きへの懸念も広がっている。

外国為替

2019年8月の外国為替は1ドル106.27円となった。前年同月と比較す ると4.79円の円高となっている。2019年に入り、2~4月は1ドル110円 台の水準で推移したが、5~7月は米中貿易摩擦激化に対する警戒感から円 高となった。8月も、米中対立の深刻化を要因として、より円高が進んだ。



四半期のまとめと見通し

米中貿易摩擦激化で景況感冷え込む

静岡県西部地域の中小企業の業況判断指数※は、2四半期連続でマイナス水準 (「悪い」が「良い」を上回る)となった。米中貿易摩擦激化が懸念材料となっている。

※業況判断指数····· 景況判断の基準としてDI (Diffusion Index) による分析で、 各質問項目のプラス傾向割合からマイナス傾向割合を差し引いた数値のこと 2019. **7月~9月期**

2019年11月発行

発行 浜松商工会議所

		全体			うち小規模事業者			
	調査数	業況			調査数	業況		
		前 期	今 期	見通し	明且双	前 期	今 期	見通し
全体	624			T	261	T	T	7
二輪車部品製造	48	7	7	丁	21	T	T	T
自動車部品製造	71		T	T	19	z i		**
機械部品製造	57	7		7	31	7		
楽器部品製造	20	T	*/*	**	12	7	**	19/9
繊維製造	25			**	18	_	T	**
卸売業	71		7	T	25	†	**************************************	T
小売業	60		7	**	25	**	**	*
建設業	68	*	*	*	12		z Č	
不動産業	45				34			
飲食・宿泊・ レジャー等	21		4		「2019年7月~9月期中小企業景気動向調査」より			

調査で聞き取ったコメント ※意見の多かったものを抜粋して掲載しています。

- 消費増税の直接的な影響は少ない、 または限定的と思われる(自動車部品製造業)
- 米中貿易摩擦の影響で、産業用ロボット関連の 受注が大幅に減少した。(機械関連製造業)
- パート・アルバイトの人材確保が 難しくなってきている。(飲食業)
- 消費増税前の駆け込み需要は、 期待していたほどなかった。(小売業)

天気予報図の見方 DI:景気動向指数 土砂降り 薄曇 晴れ時々曇り 晴れ 88 墨り 快晴 DI:-30.0 DI:-10.0~ DI:-0.1~ DI:0.0~ DI:10.0~ DI:20.0~ DI:30.0 以下 -29.9 -9.9 9.9 19.9 29.9 以上

-2019年9月を中心に-

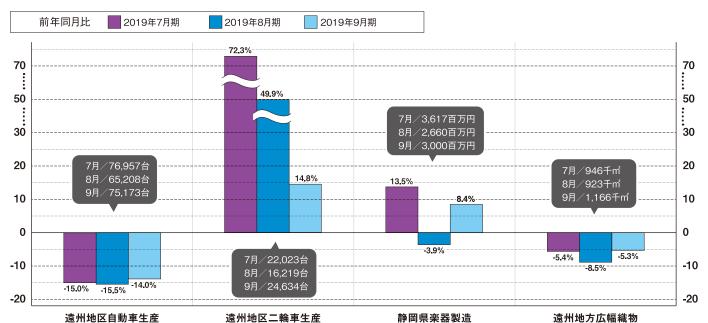
製造業のさらなる落ち込みにより 景気の不透明感が強まっている。

浜松地域の経済は、米中貿易摩擦の長期化が懸念される中、 製造業(特に自動車)のさらなる落ち込みを受けて、景気の不透明感が強まっている。

また、地元自動車メーカーの検査対応で、生産速度を抑えて検査強化を継続しており、生産を落としている。 一方、ラグビーワールドカップもあり、宿泊はインバウンドを中心として概ね高い稼働率を維持している。 10月の消費増税で、駆け込み需要は一部で発生したが、増税後の反動減や消費者心理の動向に留意する必要がある。 2019.

2019年12月発行 発行:浜松商工会議所

1) 製造業(主要経済指標)



遠州地区自動車生産 台 数

(資料:浜松商工会議所)

台 数

(資料:浜松商工会議所)

静岡県楽器製造 生産金額

(資料:静岡県楽器製造協会)

生産高

(資料:遠州織物工業(協))

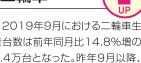
自動車



2019年9月における遠州地区の自動車生 産台数は前年同月比14.0%減の7.5万台と なった。前年水準を下回るのは5カ月連続。軽自 動車、小型四輪車、普通四輪車のいずれも前年 比マイナスとなった。国内向けは前年同月比 7.7%減少であり、輸出も前年同月比39.0% 減少となった。2019年4~9月の生産台数は、 前年同期比5.4万台減の44.4万台となった。

米中貿易摩擦の激化や地元自動車メーカー の検査対応で、生産速度を抑えて検査を強化し ている影響が出て、生産を落としている。

輪車



産台数は前年同月比14.8%増の 2.4万台となった。昨年9月以降、 スズキの浜松工場(都田)が本格稼 働したことにより、生産台数が増加 している。また、国内向けは、前年 同月比13.9%の減少、輸出は前年 同月比19.7%の増加となった。

2019年4~9月の生産台数は、 前年同期比2.7万台増の11.8万 台となった。

楽 器



2019年9月における生産金 額は前年同月比8.4%増の30億 円となり、2カ月ぶりに前年比ブ ラスとなった。分野別に9月の生 産台数をみると、ピアノ、管楽器 は前年比プラス、電子・電気ピア ノ、電子オルガンは前年比マイナ スとなった。

2019年4~9月のピアノの生 産台数は、18.110台となり、前 年同期を1,201台上回った。

繊維



2019年9月の生産量は前年同 月比5.3%減の1,166千㎡となっ た。前年比マイナスとなるのは6カ 月連続。綿織物、合繊織物、スフ織 物、その他織物のいずれも前年比 マイナスとなった。2019年4~9 月の生産量は、前年同期比221千 ㎡減の6,217千㎡となった。

来年の春夏向けの生産が始動し たが、例年に比べ、出だしの受注が 鈍い様子。

運輸

DOWN

2019年9月におけるタクシー乗車人員は前年同月比 6.7%減の42.2万人となった。前年水準を下回るのは1年1 カ月連続。タクシー乗車人員が減少している背景には、乗務 員不足および高齢化など構造的な問題がある。対策として、 定年を65歳に引き上げた企業もある。

観光



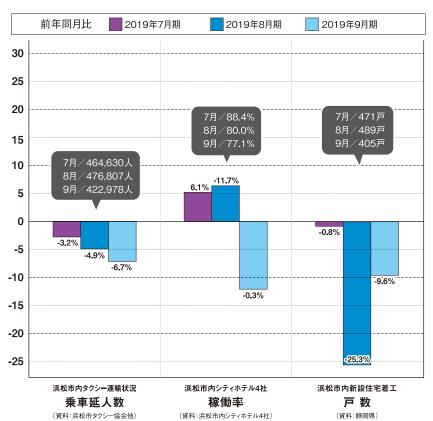
2019年9月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前 年比0.3ポイント下降の77.1%となった。インバウンド、ラ グビーワールドカップにより堅調に推移したが、台風の影響 でキャンセルが発生し、稼働率が若干下がった。稼働率が 80%未満となるのは7カ月ぶりだが、概ね高い稼働率を維 持している。

住宅着工



2019年9月における浜松市の新設住宅着工は、前年同月 比9.6%減の405戸となった。前年比マイナスは3カ月連 続。持家は前年同月比4戸減少、貸家も前年同月比69戸減 少、分譲住宅は前年同月比31戸増加となり、全体では前年 同月比マイナスとなった。

2019年4~9月の着工戸数では前年同期比34戸減の 2,889戸となり、消費増税前の駆け込み需要はみられな かった。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2019年9月の有効求人倍率は前年同月 比0.29ポイント下降の1.42となった。前月比では0.01ポイント下降した。 全国(1.57)との比較では0.15ポイント下回り、静岡県(1.54)も下回っ た。月間有効求職者が前年同月比10.8%増加する一方、月間有効求人は前 年同月比8.2%減少しており、若干人手不足感が緩和している。

倒産企業



2019年9月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク 調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は5件、負 債総額は6.8億円となった。2019年に入り、倒産件数は1桁台で推 移している。負債総額が10億円を下回ったのは、2カ月連続。

ガソリン価格

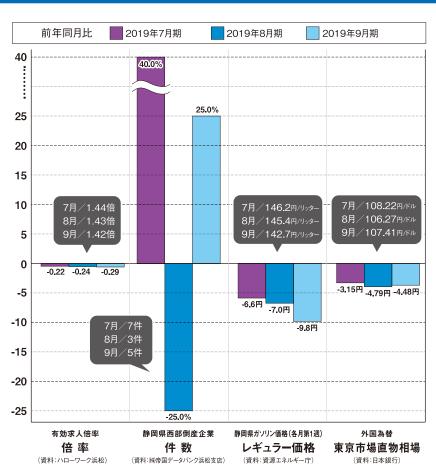


2019年9月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり142.7円 となった。前月比2.7円下落、前年同月と比較すると9.8円下落した。ガソリン価 格は、2019年2月をボトムとして、3~5月は上昇傾向に転じた後、6~9月は 再び下落した。サウジアラビアの石油施設への攻撃を受け、中東情勢が緊迫の 度を強める恐れもあり、市場では先行きへの懸念も広がっている。

外国為替

DOWN

2019年9月の外国為替は1ドル107.41円となった。前年同月と比較す ると4.48円の円高となっている。2019年に入り、2~4月は1ドル110円 台の水準で推移したが、5~8月は米中貿易摩擦激化に対する警戒感から円 高となった。9月は、若干の円安となったが、円高基調は変わっていない。



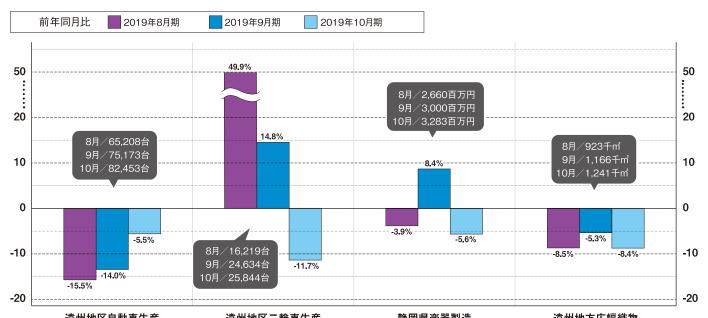
--2019年10月を中心に--

消費増税・台風が重荷となり景気の減速感が強まっている。

浜松地域の経済は、米中貿易摩擦の長期化が懸念される中、 自動車生産台数の前年割れが続いており、景況感にも悪影響を与えている。 また、消費増税前の駆け込みで増えた売り上げが減少に転じたことに加え、 台風で客足が遠のいたことが追い打ちとなっている。

有効求人倍率についても、自動車生産台数の減少に伴って、有効求人数が減少し、倍率が下降する傾向がみられる。 今一度、経営の足元を見つめ直し、景気の転換に備えるべき時期にきているのではないだろうか。 2020. 2020年1月発行 発行:浜松商工会議所

① 製造業(主要経済指標)



DOWN

遠州地区自動車生産 台数

(資料:浜松商工会議所)

DOWN

遠州地区二輪車生産 台 数

(資料:浜松商工会議所)

静岡県楽器製造 生産金額

(資料:静岡県楽器製造協会)

遠州地方広幅織物 生産高

(資料:遠州織物工業(協))

自動車

2019年10月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比5.5%減の8.2万台となった。前年水準を下回るのは6カ月連続。軽自動車、小型四輪車、普通四輪車のいずれも前年比マイナスとなった。国内向けは前年同月比7.6%減少であったが、輸

米中貿易摩擦の激化や地元自動車メーカーの検査対応で、生産速度を抑えて検査を強化している影響が出て、生産減が続いている。

出は前年同月比2.7%増加となった。

二輪車

2019年10月における二輪車生産台数は 前年同月比11.7%減の2.5万台となった。昨年9月以降、スズキの浜松工場(都田)が本格 稼働したことにより、生産台数が増加していたが、一巡したため今月は減少に転じた。また、 国内向けは、前年同月比43.6%の減少、輸出 も前年同月比7.8%の減少となった。

米中貿易摩擦の影響で部品受注が減少しているといった声が多く聞かれる一方、受注 および収益環境は引き続き良好であるなど の声もあった。

楽 器

2019年10月における生産金額は前年同月比5.6%減の32億円となり、2カ月ぶりに前年比マイナスとなった。分野別に10月の生産台数をみると、ピアノは前年比プラス、電子・電気ピアノ、電子オルガン、管楽器は前年比マイナスとなった。

DOWN

売上・利益とも堅調との声が ある一方で、人手不足や設備の 老朽化が課題となっている。

繊維



2019年10月の生産量は前年同月比8.4%減の1,241千㎡となった。前年比マイナスとなるのは7カ月連続。綿織物、乙繊物、その他織物のいずれも前年比マイナスとなった。

従来ならば来春夏向け衣料の生地生産が本格化する時期ではあるが、受注状況が非常に悪い。

運輸

前年比 DOWN

2019年10月におけるタクシー乗車人員は前年同月比5.4%減の43.2万人となった。前年水準を下回るのは1年2カ月連続。10月はイベントが多数開催されたが、台風による需要減が大きかった。また、タクシー乗車人員が減少している背景には、乗務員不足および高齢化など構造的な問題がある。

観光

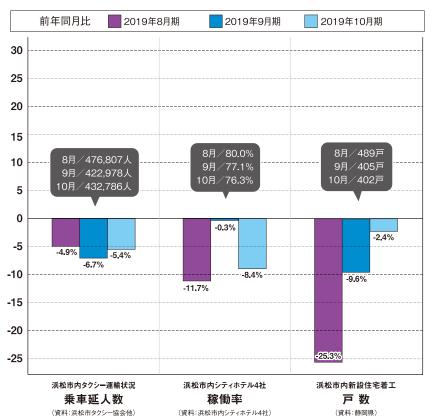


2019年10月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比8.4ポイント下降の76.3%となった。10月前半は、ラグビーワールドカップ、インバウンドとも堅調に推移したが、後半はビジネスや観光需要が低下し、稼働率が若干下がった。しかしながら、おおむね高い稼働率を維持している。

住宅着工



2019年10月における浜松市の新設住宅着工は、前年同月比2.4%減の402戸となった。前年比マイナスは4カ月連続。持家は前年同月比11戸減少、貸家も前年同月比17戸減少、分譲住宅は前年同月比17戸増加となり、全体では前年同月比マイナスとなった。



③ その他〈主要経済指標〉

(資料:ハローワーク浜松)

有効求人



ハローワーク浜松管内における2019年10月の有効求人倍率は前年同月比0.27ポイント下降の1.44となった。前月比では0.02ポイント上昇した。全国(1.57)との比較では0.13ポイント下回り、静岡県(1.51)も下回った。自動車生産台数の減少に伴って、月間有効求人数は前年同月比8.6%減少しており、有効求人倍率も下降する傾向がみられる。

倒産企業



2019年10月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は6件、負債総額は3.6億円となった。2019年に入り、倒産件数は1桁台で推移している。負債総額が10億円を下回ったのは、3カ月連続。

ガソリン価格

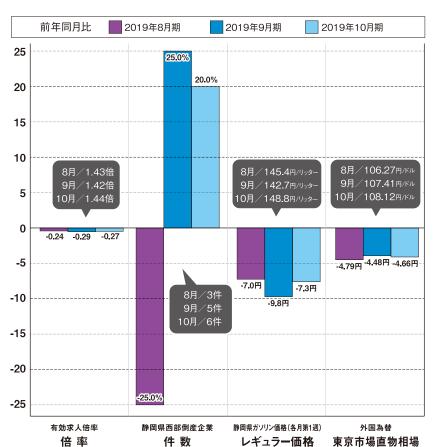


DOWN

2019年10月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり148.8 円となった。前月比6.1円上昇、前年同月と比較すると7.3円下落した。ガソリン価格は、2019年2月をボトムとして、3~5月は上昇傾向に転じた後、6~9月は再び下落した。中東情勢が緊迫の度を強める恐れもあり、市場では先行きへの懸念も広がっている中、10月は若干上昇に転じた。

外国為替

2019年10月の外国為替は1ドル108.12円となった。前年同月と比較する と4.66円の円高となっている。2019年に入り、2~4月は1ドル110円台の水 準で推移したが、5~8月は米中貿易摩擦激化に対する警戒感から円高となった。 9~10月は、若干の円安となったが、前年に比べ円高基調は変わっていない。



(資料:㈱帝国データバンク浜松支店)

(資料:資源エネルギー庁)

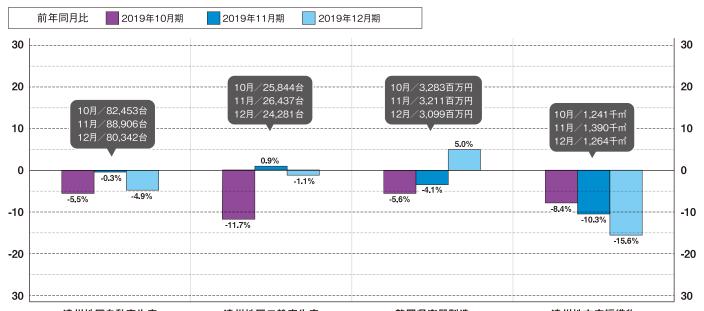
-- 2019年12月を中心に---

浜松地域の景況感は一段と悪化している。

浜松地域の経済は、消費増税、米中貿易摩擦等の影響で指標は悪化した。 製造業では、楽器は回復傾向がみられるものの、

自動車産業は新型車効果が薄らいできており生産計画が下振れしているためマイナス幅が広がった。 また、非製造業では従業員高齢化離職による売り上げ減少も見受けられた。 今後、新型コロナウイルスによる肺炎拡大により中国工場の稼働停止、 来日観光客減少による景気の更なる悪化が懸念される。 2020.
3
2020年3月発行
発行:浜松商工会議所

① 製造業(主要経済指標)



遠州地区自動車生産 台数

(資料:浜松商工会議所)

遠州地区二輪車生産 台 数

(資料:浜松商工会議所)

静岡県楽器製造 生産金額

(資料:静岡県楽器製造協会)

遠州地方広幅織物 生産高

(資料:遠州織物工業(協))

自動車



2019年12月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比4.9%減の8.0万台となった。前年水準を下回るのは8カ月連続。小型四輪車は増加したが、軽自動車、普通四輪車は減少した。国内向けは前年同月比7.6%減少であったが、輸出は前年同月比7.6%増加となった。

2019年1~12月の生産台数は、前年同期比6.7万台減の94.6万台となった。

二輪車



2019年12月における二輪車生産台数は前年同月比1.1%減の2.4万台となった。国内向けは、前年同月比5.7%の増加、輸出は前年同月比2.0%の減少となった。排気量別では50cc以下前年比32.6%減、51cc~125cc以下17.8%増、126cc~250cc以下74.6%増251cc以上5.6%減であった。2019年1~12月の生産台数は、前年同期比4.1万台増の26.5万台となった。

楽 器



2019年12月における生産金額は前年同月比5.0%増の30億円となり、前月まで続いたマイナスからプラスに転じた。分野別に12月の生産台数をみると、ピアノ、管楽器は増加したが、電子・電気ピアノ、電子オルガンは減少した。特に電子オルガンは16.6%減と5カ月連続前年水準を下回っている。

2019年1~12月のピアノ生産台数は、36,177台となり、前年同期を857台上回った。

繊維



2019年12月の生産量は前年同月比15.6%減の1,264千㎡となった。前年比マイナスとなるのは9カ月連続。綿織物、合繊織物、スフ織物、その他織物のいずれも前年比マイナスとなった。特に合繊織物が前年比24.1%減と減少幅が大きかった。来春夏衣料向けの受注減少に加え、消費の低迷による景気の悪化により工場の稼働率は低下している。2019年1~12月の生産量は、前年同期比703千㎡減の13,999千㎡となった。

運輸

前年比 DOWN

2019年12月におけるタクシー乗車人員は前年同月比9.4%減の48.8万人となった。前年水準を下回るのは1年4カ月連続。タクシー乗車人員が減少している背景には、乗務員の減少による減車及び前年より土曜日が一日減少したことが要因と考えられる。2019年1~12月の乗車人員は、542万人となり、前年同期を29.2万人下回った。

観光

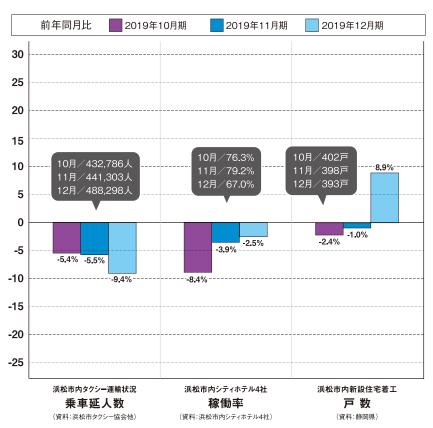


2019年12月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比2.5ポイント下降の67.0%となった。インバウンドは堅調であったが、国内旅行は、ビジネスは低調であった。12月後半は消費増税の影響もあってか前年より低調に推移し稼働率は低下した。2019年の年間平均稼働率は前年比0.3ポイント減の79.1%となった。

住宅着工



2019年12月における浜松市の新設住宅着工は、前年同月比8.9%増の393戸となり5カ月続いたマイナスからプラスに転じた。持家は前年同月比15戸増加、貸家は前年同月比41戸増加、分譲住宅は32戸減であり、全体では前年より増加となった。2019年1~12月の着工戸数は、前年同期比171戸減の5,316戸となった。



③ その他〈主要経済指標〉

(資料:ハローワーク浜松)

有効求人



ハローワーク浜松管内における2019年12月の有効求人倍率は前年同月比0.35ポイント下降の1.51となった。前月比では0.06ポイント上昇した。全国(1.57)との比較では0.06ポイント下回り、静岡県(1.47)を0.04ポイント上回った。月間有効求人数は前年同月比11.5%減少しており、有効求人倍率も下降する傾向がみられるが、医療、福祉、運輸などの業種では慢性的な人手不足が続いている。

倒産企業



2019年12月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は3件、負債総額は6.3億円となった。倒産企業数は前年同月比40%減。2019年に入り、倒産件数は1桁台で推移している。

ガソリン価格

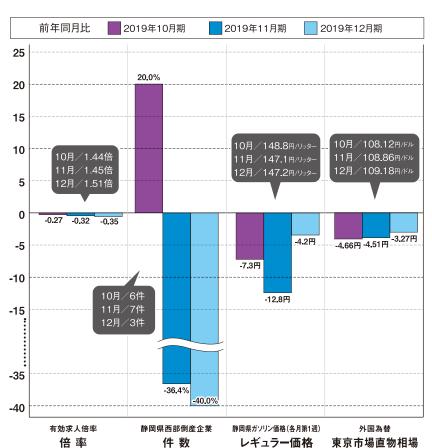


2019年12月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり147.2円となった。前月比0.1円上昇、前年同月と比較すると4.2円下落した。ガソリン価格は比較的安定した価格で推移しているが今後、原油主要産出国である中東情勢の影響を受ける可能性もあり市場では先行きへの懸念も広がっている。

外国為替



2019年12月の外国為替は1ドル109.18円となった。前年同月と比較すると3.27円の円高となっている。2019年に入り、2~4月は1ドル110円台の水準で推移したが、5~8月は米中貿易摩擦激化に対する警戒感から円高となった。9~12月は、若干の円安となったが、前年に比べ円高基調は変わっていない。



(資料:㈱帝国データバンク浜松支店)

(資料:資源エネルギー庁)